

研究・調査報告書

| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
|--|--------|-------------------|
| A-131 | 12-130 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学 |
| 題名 (原題/訳) | | |
| Intellectual disability: population-based estimates of the proportion attributable to maternal alcohol use disorder during pregnancy. 知的障害：妊娠中の母親の問題飲酒の集団への寄与度の評価 | | |
| 執筆者 | | |
| O'Leary C, Leonard H, Bourke J, D'Antoine H, Bartu A, Bower C. | | |
| 掲載誌 | | |
| Dev Med Child Neurol. 2013 Mar;55(3):271-7. | | |
| キーワード | | |
| 知的障害、母親の問題飲酒 | | |
| 要旨 | | |
| 目的： 本研究では母親の飲酒と児の知的障害との関連を検討する。 | | |
| 方法： 西オーストラリア健康、精神保健、薬物アルコールデータにおいて国際疾病分類 ICD-9 および 10 で問題飲酒をもつ母親を西オーストラリアデータ結合ユニットを用いて検討した (非アボリジニー5614 人、アボリジニー2912 人)。アルコール関連疾患のない母親の集団を、出産年齢、児の出生年をマッチさせて設定した (1983-2001)。西オーストラリア知的障害データベースと発達異常登録から、1487 人の知的障害症例を同定した。知的障害に関するオッズ比をロジスティック回帰を用いて算出し、集団寄与危険割合も算出した。 | | |
| 結果： 知的障害症例の少なくとも 3.8% (95%CI 2.84-4.89%) は母親の問題飲酒を予防することによって減少可能と考えられた。この割合は非アボリジニーでは 3.7%、アボリジニーでは 15.6%であった。妊娠中の母親のアルコール関連疾患による児の知的障害の調整オッズ比は約 3 倍であった (非アボリジニー2.89、アボリジニー3.12、過剰発生割合はそれぞれ 3.7%、5.5%)。胎児性アルコール症候群の小児の 32%が知的障害を有していた。 | | |
| 結論： 母親の問題飲酒は、児の知的障害の主要危険因子であり、遺伝要因は認めなかった。 | | |